

健康科学：運動および健康、教育に関する基礎的研究

# 神奈川県タレント発掘・育成事業「かながわジュニアチャレンジプロジェクト」 第3回タレント育成能力開発プログラム実施報告

渡辺 英次 (文学部教授)

## 1. はじめに

現在、多くの自治体で行われている「タレント発掘事業」は、2004年に福岡県からスタートし、2005年に北海道美深町、2006年に和歌山県、2007年に岩手県、山形県と続き、年を重ねるごとに全国各地に広がりを見せた1)。独立行政法人日本スポーツ振興センター (JSC) では、広がりを見せるタレント発掘・育成に携わる関係団体等が連携し、日本全体として国際舞台上で活躍するアスリートを発掘・育成するシステムを構築することを目的としてワールドクラス・パスウェイ・ネットワーク (WPN) を設立した。2022年11月現在参加団体は46地域となっている2)。

神奈川県では県スポーツ局を中心にタレント発掘事業の準備を進め、児童一人ひとりの体力・運動能力の特性や競技の適性を見いだすことができるよう支援する「スポーツ能力測定会」及び「スポーツ競技体験会」から選考された優れた運動能力を有する児童を対象に、最長2年間の身体能力開発・知的能力開発等の最先端プログラムを実施し、将来、オリンピック・パラリンピック等で活躍する神奈川育ちのトップアスリートの輩出を目指すタレント発掘事業「かながわジュニアチャレンジプロジェクト」を2020年からスタートするために準備を進めていた。しかしながら2020年1月からコロナ禍となり2年間の延期を余儀なくされた。その後、感染予防対策を施して2年後の2022年度には実施の運びとなり、小学4年生

を対象に7月23日に「スポーツ能力測定会」、10月29日に「スポーツ競技体験会」を実施し、「かながわジュニアスターズ」28名が選考された。11月23日に「かながわジュニアチャレンジプロジェクト第1期生の開講式」が晴れて行われ、年10回程度のプログラムが予定されている。

著者は2023年1月22日(日)に開催された第3回タレント育成能力開発プログラム「選手個々の健全な発育発達に合わせた育成強化と成長期のスポーツ障害の予防」と、「定期的に体力・運動能力測定をして、プログラム効果を検証」を担当した。以下に報告する。

## 2. 知的能力開発プログラム「ジュニア期の発育発達・スポーツ傷害予防」

開会式の後、かながわアスリートネットワークメンバーの相楽幸子氏、鬼頭有紀子氏(バレーボール元日本代表、オリンピック)による選手たちへの激励の後、選手、保護者を対象に「選手個々の健全な発育発達に合わせた育成強化と成長期のスポーツ障害の予防」をテーマに講演を行なった。身長が発育について(発育時期、発育メカニズム、骨格発育とスポーツ、発育急増期に起きやすいケガ)、運動・栄養・休養の大切さについて、ケガの予防、いろいろな体験をすることの大切さ＝多様な練習効果について解説した。また、「体力・運動能力測定」終了後にコーディネーション、スポーツマンシップとフェアプレー、

Good Sportについて説明し、最後に質疑応答の時間を設けた。

## 3. プログラム効果検証

### 「体格、体力・運動能力測定」

次に、「定期的に体力・運動能力測定をして、プログラム効果を検証」として、体格、体力・運動能力測定とコンディション測定を行った。測定項目は、形態(身長、体重・体脂肪率、座高)、体力・運動能力(20mスプリント、プロアジリティ、反復横とび、立ち幅とび、垂直とび、リバウンドジャンプ)、コンディション測定として体組成測定、骨密度、推定血中ヘモグロビン濃度測定を実施した。体力・運動能力測定結果は後日フィードバックを行い、コンディション測定の結果はフィードバック用紙と共に当日返却した。今後おこなわれるプログラムの終了時期に効果検証のため同様の測定を予定している。

## 4. おわりに

本プログラムを受講した選手たちは講習会では多くの情報を得ようとメモをとりながら、少し難しい内容を一生懸命に追いかけていた。測定では同じグループの仲間の結果と自分の結果を見比べてみたり、測定機器に興味を持ったりと楽しそうに参加している様子が見えた。測定中は細かな機器のトラブルがあったが予定通り測定を終えることができた。

後日いただいた選手たちの感想では、「グル



講義風景



運動能力測定(反復横とび)

ープの人たちと測定出来て楽しかった」「色々な事に挑戦出来て良かった」「運動以外によく食べて、よく寝る事も大切だと学んだ」「大学生の人たちとも一緒に仲良くできた」「反復横跳びが難しかった」という反応をいただいた。今回測定スタッフとして参加した大学生にとっても、コロナ禍で計画した実習が中止になる中で初めての測定会参加となる学生が多かった。このような実習をもっと早くやりたかったという声が多く、今後もこのような交流の機会を増やしていきたいと思う。

企画から4年越し、2022年7月から無事に本事業がスタートしたことは、これまで多くの時間を費やしてきたスポーツ局スタッフの方々への思いがひとつ結実したイベントであったと思う。

本事業の目的、ゴールはいくつかあるが、長期継続し、多くの選手たちが最良のプログラムを享受してより良い道を選択すること、将来その選手が何らかの形で本事業に関わることがゴールの一つであると考えている。

著者は2021年より本事業にアドバイザーとして参画した。今後は、第1期生として選抜された28名をスタートとしていろいろなプログラムから多くの学びを得て、余すところなくその能力を開花させ、次にステップアップすることを願い、引き続きそのサポートを行う所存である。

### 謝辞

本プログラム実施にあたり、コンディショニング測定を統括いただいた相澤勝治先生、測定スタッフとして参加したジャーナリズム学科ゼミ生、教養ゼミ生各位に測定等協力いただいたおかげで予定通りのプログラムを遂行することができた。ここに感謝の意を表します。

### 参考文献

- 1) 衣笠泰介, 藤原昌, 和久貴洋, Gulbin Jason, 我が国におけるタレント発掘・育成に関する取組の変遷, Sports Science in Elite Athlete Support, 3 巻, p. 15-26, 2018.
- 2) 日本スポーツ振興センターアスリート育成パスウェイ Webサイトワールドクラス・パスウェイ・ネットワーク [https://pathway.jpnport.go.jp/wpn/index.html#wpn\\_map](https://pathway.jpnport.go.jp/wpn/index.html#wpn_map)(2023年1月31日閲覧)

付記：本研究の一部は令和4年度スポーツ研究所助成(調査研究費:健康科学部門)によって遂行された。



コンディショニング測定(骨密度、体組成、推定血中ヘモグロビン濃度)



プログラム終了後の集合写真